

I CBT方式試行の実施状況

(1) 試行の目的

- 全国学力・学習状況調査が順次CBT（Computer Based Testing）化されることを踏まえ、一人一台端末を用いたCBT方式での調査実施における留意点を把握する。
- CBT方式での調査実施に当たり、通信環境等に関する課題の抽出を行う。

(2) 試行実施日

令和6年4月15日（月）～6月7日（金）で学校が設定した日

(3) 受検者数・受検校数・実施教科等

※中等教育学校（前期課程）は中学校と読み替える。

	県受検者数（受検校数）	実施教科等
中学校第1学年	476人（4校）	国語 数学 英語 質問調査
中学校第2学年	466人（4校）	国語 数学 英語 質問調査

※質問調査は県独自調査

2 試行して分かったこと

- CBT方式は、紙で実施する場合と比べ、結果返却が早い。そのため、教師は指導改善、生徒は学習改善を短いサイクルで行うことができる。
- ▲ 動画や音声を視聴しながら解答する設問では、問題が止まってしまう事例があった。
- ▲ 調査中、端末が再起動してしまう場合があった。
- ▲ 数学の演算記号や分数の入力に戸惑う場面が見られた。

3 CBT方式の今後に向けて

- 事前に、端末のOSを最新の状態にアップデートしておく必要がある。
- 事前に、動画を含むCBT問題を学年一斉に実施できるかなどについて、通信環境を検証しておく必要がある。
- CBT方式特有の解答方法に慣れる必要がある。

【参考】学力調査の結果（教科・学年別平均正答率）

※調査問題はPBTとCBTで異なる

	国語		算数・数学		英語	
	中1	中2	中1	中2	中1	中2
R6	88.0	86.1	93.2	90.4	95.7	90.5